

『女性の視点から避難所を考えませんか?』会議録

- ◆開催日 平成26年4月6日(日) 13:30 受付 14:00 開始
- ◆場所 四谷ひろば B館3階 ライブラリーにて
- ◆参加者 危機管理課 危機管理課長、事業推進係長、区長室副参事 地域防災担当
四谷特別出張所担当者、四谷ひろば避難所運営協議会 会長
地域住民 15名 計 20名

14:00 開会の挨拶

14:05 主催者挨拶

※来賓紹介

14:10 新宿区危機管理課 課長より

～14:40 『これまでの経緯・区の取組み』 ※パワーポイント使用

3年前の東日本大震災以降、いろいろなことが改善された。たとえば、地震があった場合に、歩いて帰ることを前提として、ゴム底の靴を用意しておいて、「帰る」ことを基本としていたが、震災以後は、帰宅困難者対策のため3日間は帰さないことを目標にオフィス内に待機することをお願いしている。

建物が無事で、火事がなければ、むやみに避難所に逃げない。そのためには、自宅でのいざという時の準備がとても重要である。

過去における首都直下型地震の経験から、建物の倒壊で8割以上が圧死をしていることを考えると、地震があった場合に、「15分間」まずはなんとかして生きるということを第一に考える。15分以内に亡くなるという率が高い。そのためには、①家具転倒防止 ②住宅の耐震化を主に対策して講じていく必要があり、このことを重要視して推進している。

避難体制で一番困ったことは、「トイレ」のことだった。そして、新宿区の課題としては、①バキュームカーの確保、②簡易トイレの処理の二点である。

バキュームカーについては、沼田市と協定を結んでいる中で、沼田が所有するバキュームカー25台のうち、1台を災害時には貸与していただくことになっている。簡易トイレのゴミについては、以前は燃やせないからと回収してもらえなかったが、災害時には収集してもらえらることとなった。

体験で、避難所に100人が泊まったところ、朝30人しか残っていなかったということがあった事例がある。居心地が悪かったために、夜のうちに抜けてしまったということらしい。

すでに、女性の視点での集まりは、四六小のほかに、鶴巻小が立ち上げて活動を始めている。

◎運営協議会会長より

各個人宅で、いざというときのための準備をしていただくことが大事だと感じた。

14:40 状況・主旨説明

～15:15

四六小がすでに、女性の視点から避難所を考えるという取り組みを行なっています。四谷ひろばに避難所が開設する事態になったとき、仮設トイレは、グラウンド門の入口右手側になることは、何度も訓練で理解し、設置の仕方も練習してきましたが、夜中に女性がトイレに行くことを想定したときに、安全性の問題等が危惧されました。いろいろな具体的なことを視点を変えることにより、考えてみる必要そうです。

今日、お集まりいただいた方々は、常日頃より、避難所訓練に参加していて、縁の下の力持ちの役割を担って頂いている方ばかりです。その皆さん方が、一同に介し、避難訓練で感じていたこと、不思議だったこと、聞いてみたかったことなどを持ち寄り、意見交換をする場として継続して集まることを考えています。

地域ひろばは、ほかの避難所が学校として再開していく中で、最後まで避難所として残っていく施設でもあります。また、おもちゃ美術館やCCAAアートプラザという団体や、自主事業として、新宿区から施設を無料で貸していただき、自主財源

を得るために施設貸出し事業をしている為、地域ひろばの利用者の避難のことも考えていかなければなりません。現在、地域ひろばでは、利用者の分として、地域の避難所の倉庫から持ち出さないで済むように、煉炭やアルファ米、素麺等を用意しています。倉庫がありますから、備蓄庫とは別に独自に、地域の避難備品などをそろえることもできる施設でもあります。

あらかじめ、余裕のあるときに必要なものを取りそろえ、例えば、企業の人や帰宅困難者が来たときには、帰宅困難者のための受け入れることのできる施設を知らせるための案内板を用意しておいてすぐに対応できるようにするとか、何があっても、何が足りなくて、ひろばで用意するもの、自宅で用意するもの、町会で用意するもの、また、町会によっては、個別に炊き出しをする場所を考えているところなどとの連携についてなどなど、『知っておく』、いざとなったときの『窓口になれる人』の存在を増やしておく必要もあると思う。

トイレの問題が一番の課題であるという話があったが、四谷ひろばには、三階のトイレ、一階のトイレ、地下に幼稚園のトイレがある。水は流れないものの、目隠しをすることができるスペースとして確保できる。

(意見)紙おむつが有効である。自宅で用意している。

・各ご家庭で、紙おむつや凝固剤などを用意しておき、避難時に四谷ひろばに持参してもらおう方法がいいのではないかと。持参しさえすれば、スペースはあるという考え方で、避難所として、大量に用意しておくということではなく、自宅で使用できれば自宅で、避難を余儀なくされた場合には避難所へ持参するというのいいのではないかと。

☆質疑応答等

Q. グラウンド門の鍵は、災害時にどうやって開けてもらえるのか。

A. 四谷四丁目町会からは、私が依頼をされている。また、愛住町は、町会長が鍵を預っている。それ以外に、まだ、担当については、各町会が検討中であるが、とりあえず、門の中に入ることができるように、グラウンド門、正門ともに、キーボックスが用意され、ダイヤル式の鍵をかけている。

Q. 透析をしている人はどうすればいいか。

A. 病院としての基地は、四谷は、四谷中学一箇所。ただ、大災害時には、すぐに透析を受けることができる環境は整わないだろうと予測される。難しい。

15:20～15:40 茶話会&テーブルごとの意見交換等

15:45 閉会の挨拶

アイデアとしては有効なものも、実際に体験してみると、予想外なことがある。いろいろなアイデアを出し合いながら、実地を行なうことで、仮設トイレを夜に設置して、カンテラで明かりをつけてみたら、透けるのか、どの程度透けて、どうやったら改善できるのかということなど具体的に考えていけたら、理解してくれる人も増えるのではないかと思います。

次回には、模造紙とポストイットを用意して、各テーブルごとに話ができるようにしたいと考えています。今日の話をそれまでに頭の片隅において、疑問や提案などありましたら、継続的に集まり、皆さんで考えていきましょう。そして、町会長・防災部長など常日頃より避難所運営にご尽力いただいている方々にご提案や質問などをしたり、避難所協議会を盛り立てていきたいと考えています。本日は、町会のイベントが重なり欠席されている方にもぜひ、ご参加いただけるようにお声かけいただければと思います。ありがとうございました。

※次回、レディス会 8月2日(土) 14:00～ ライブラリーにて